

順学院御老記

第一系院の田付水延の頂橋築とて之公家の山川三野川の東  
の山一寺を建立し〜順学院と号す或後水尾院明庵  
年母寺の跡を山荘に經營し〜治ひ〜成の誰とて  
し〜の山一寺の田付水延乃田舎に善提樹の一本苑の庵寺月  
親密曲家行し上の田舎屋敷を隣雲亭流詩臺窮還軒也  
し麻を田舎に活乾池系ね場の十系を寛文十年の頃迄ハ  
年、小つた二三系にのみ、御老あり〜同三年の九系迄の  
御老あり〜とあり〜中にも寛文二の〜は 御老の時ハ

又元治三年〜田舎九系成〜を〜成り〜を〜  
〜また二十系を源〜高保六年長月の吉日〜又  
〜かとの田舎を志〜 御老あり〜〜同十年の長月迄  
年毎に春秋二系、御老に〜十系迄、御老あり〜を  
らつ〜中〜を〜今一系を教を〜め〜同十六  
年迄は十系あり七系を、御老あり〜初〜二十系乃  
御老あり〜か〜御老あり〜を〜せち〜  
成り〜は〜山荘に〜今ハ十系の内寺  
月親隣雲亭の跡の〜残り活乾池の水と〜を  
の山あり善提の就のり流〜山〜夜〜善提川あり

いひゆきを奉り合せめひしうはれも民の耕す水川りく  
ゆき系修就比でもかろす山の頂さすれいつしう澤  
のこ生ひしうし成たしうしは頂ひしう本のみちいふ  
しうし小松をせしうしふせめひしう若井川の水をせしう  
の系ひなりゆりしうし比の中修めん其のかこ若松塙  
と名付しきしうしふらつ玉のかこしうしきりしうし松の一本い  
しうし投系見事ありしうしうしうしうしうしうしうしうし  
もあしせの影のみとせしうし比ゆくを見せしうし今ふめしう  
あしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうし  
あしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうし

石を切出さしうしうしうしうしうしうしうしうしうし  
其の橋しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうし  
文政七の年長月吉日らゆしうしうしうしうしうしうし  
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうし  
多井の中丸之坊城の中丸之高舎の宰相廣橋系之宰相  
殿上人の葉室の系瑞司は中將瑞平の中將三系乃  
中將三野の少將冷泉新中將柳系石大兵衛野太中  
系表は馬場中山路の権藤同善の藏人かといしうし  
しうし系瑞司の園白殿は推系供奉つしうしうしうし  
村上の信長はかしうしうしうしうしうしうしうしうし



河内分一丈より東一道の河内郡。入河内河内郡屋造り不  
可代より致國典門不夫者不立之此之見有者而之極指秩地  
握之継袋入弓教陰亦相没り全屏風之之上。好處分と没り  
者不夫者不立者不立之先之也。河内屋造り。入河内河内  
今度雨後候屋造り不立者不立人板敷之也。河内屋造り。入河内河内  
月鏡一。入河内河内屋造り表門の林丘寺に相集直。指務とは  
碁又より。入河内河内屋造り河内屋造り河内屋造り。河内屋造り  
屋造り。入河内河内屋造り河内屋造り河内屋造り。河内屋造り  
樂立之。河内屋造り河内屋造り河内屋造り。河内屋造り

河内屋造り河内屋造り 水樹多品飯

右之河内屋造り河内屋造り

兼日河内屋造り河内屋造り

右之河内屋造り河内屋造り 院河内河内屋造り

河内屋造り河内屋造り河内屋造り河内屋造り

河内屋造り河内屋造り河内屋造り河内屋造り

河内屋造り河内屋造り河内屋造り

其日着河内

白之童襟河内道衣 白雲之浦河内指責

河内屋造り河内屋造り

河内屋造り河内屋造り

黄木城河小直衣

還河

而三重襟河小直衣

- 一 信奉堂上持衣以下馬具種々由在の山系屋の上由系屋の上北面斗の石比下信奉云 御守の河随及の河委の極及の御守の事
- 一 還幸河権子別斗河信抄五刻 河出の真刻 心洞
- 一 入河之事 相明七教多く河原迄ふる具抄事 之由在の堂上一家之列中 高袍衣者及之入斗 相明を眷顧の列中 加り申の面白事 之由在の
- 一 世及の河連と唱申の事 之由在の官庫の由在の既先年

御幸始も 之河の由在の

- 一 河系屋自今修學院河の云祿命云 河出の
- 一 馬の姓 河出の由
- 一 不可代の今度河信抄 靈元信皇河辰物河太の右信願之由及由の
- 一 河局方の信抄或人系向今修學院之云及之抄事 之申之柳系辰換進後及之信抄之過信抄由在の
- 一 列事の加勢取の事 之及之修學院の事 其具信日修願乞り歩の事 之由在の
- 一 洋見人鞍衣浪衣の登り申の近江尾浪丹波河信抄事 之修願

史記中山史又之不足 河東中軍中解

九月廿二日

文政七年順學寺村田宗左 河東掛

庭田中納言

高倉宰相

孫谷右衛門尉

大谷之任

坂川日向守

橋本安藝守

河東守

河東法奉更名 將夜騎馬

二條右大臣

花山院權大納言

德大寺權大納言

庭田權大納言

坊城權中納言

光多井右衛門尉

廣橋親宰相

葉室頭辭

榊岡中將

橋本中將

二條中將

高野少將

冷泉新中將

柳原權右中將

妻木親權依

比卜方

極腐

藏人武人

聽官武人

主典

不衆

河東守掛人

工小色

口人

下出掛人

河東守掛人

院河東掛

本職河東守掛人

檢校河東守掛人

河東守掛人

河東守掛人

河通筋 石懸今出川三新田荒神只一掃掛之赤山法也ノ由小休不

園白殿推系之由 二条殿 小直衣水倭丁鞍字縁衣用由也

信奉信衣未

花山院殿

合人武人特衣傾傾深

徳大寺殿

櫛弓殿

表白裏赤  
袖法紫袋

衣 唐衣 単 白菱後

特衣  
拵黄 紫八友

下袴 白麻

表赤又地文江葉袴  
裏白又露尾又終

川伝本 花田板川 小葵

特衣  
拵黄

拵黄 下袴 白

特衣  
拵黄

表白又露尾又終  
裏赤又露尾又終

衣 表朽葉 裏袴芳

特衣  
拵黄

拵黄 二重 下袴

二條殿

特衣  
拵黄

白襖 唐紫袋

下袴 不知

衣 表紅 裏唐紫 単 白菱後

小川院極高

特衣  
拵黄

表紫裏紫  
裏唐紫袋

下袴

衣 表黄唐紫袴  
裏唐紫 単 白菱後

信奉下由

特衣  
下袴

唐紫 二京麻

衣 単 拵黄

水葉殿由是法

特衣  
下袴

二品

衣 単 拵黄

水藏人分

特衣  
下袴

御醫

右白肥後寺

特衣  
拵黄

表朽葉裏紫  
裏唐紫

下袴 衣 単





由來

仙洞亭 沖満悦之事

け武通志書州の廣橋其あるまゝより村と竹屋に於ては  
又ふんたり

文政七甲申九月五日於於修學院 沖満悦

水村多志録

樹の陰うつる葉を忘つた上流のひきも澄る池水  
松のや志の神あり小千をうたを流の三つ系  
今更ふ池の氷の感澄るみより成るを女代の歌  
松陰のりあうりては三つ一か女代の多志を池の流浪  
忠良

毎月のくまの葉の枝も水もみより流るをまわし  
池水の波もうつりては起る枝のあをせのうけをあらわ  
山松の陰をうつりては流津あをさしりて秋の池多  
おのみちうつるす清の色くま女代もけ見む池のさけ  
御船をくまゆ池の水はうはしりてをも穢のわら清屋  
水望るも女代のうみとまむ比より多る枝枝も陰を移し  
あつる清も月も常盤の陰をひくまををう清池のさけ浪  
る代もまむ枝もつと松の清も池の水をあらわしりて  
りみち葉も枝葉もつと清見つては波中かき秋の池水  
比よりみちもつと清見つては波中かき秋の池水  
嵐定 家厚 圓長 室隆 重徳 資愛 建房 俊明 為利